

平成26年 春季特集展示

OKAKURA TENSHIN & The Japan Art Institute's Revival

岡倉天心と再興日本美術院の系譜

平櫛田中コレクションを中心に



平櫛田中作《岡倉天心像》1931年 粘土原型

2014年
3月22日(土)

▶ 6月8日(日)

休館日 = 月曜日(ただし祝日は開館し、翌日休館)

開館時間 = 9時～17時(入館は16時30分まで)

入館料 = 一般400(300)円

()内は20名以上の有料団体

小中高生及び65歳以上の高齢者: 無料

主催 = 井原市立田中美術館



いばらしりつでんちゅうびじゅつかん
井原市立田中美術館

IBARA MUNICIPAL DENCHU ART MUSEUM

〒715-8601 岡山県井原市井原町315 Tel. 0866-62-8787

岡倉天心と再興日本美術院の系譜

～平櫛田中コレクションを中心に～

OKAKURA TENSHIN & The Japan Art Institute's Revival

このたび井原市立田中美術館は、^{おかくらてんしん}岡倉天心と^{ひらくしでんちゅう}平櫛田中、そして再興日本美術院の作家たちに焦点を当てた特集展示を行います。

岡倉天心（1863～1913）は日本が近代国家として歩み始めた明治時代に、さまざまな美術・文化政策をリードした指導者です。古社寺宝物調査と法隆寺夢殿の開扉、博物館事業、東京美術学校や日本美術院の創立など、わが国の近代美術史に多大な功績を遺しています。そのみならず、『東洋の理想』や『茶の本』などの英文著作でも知られるように、豊かな見識と鋭い批評眼で時代を切り拓いた国際的な思想家でもありました。

井原市出身の彫刻家・平櫛田中（1872～1979）は、そうした天心を生涯の師として仰ぎ、大きな影響を受けます。天心が明治22年（1889）に創刊した美術雑誌『國華』は、平櫛が天心と出会う前から購入していました。さらに、明治40年（1907）に天心を会頭として結成された日本彫刻会では、^{かつじんせん}《活人箭》や^{じんぎゅう}《尋牛》など初期の代表作を発表しています。

《尋牛》の石膏原型は、岡倉天心が激賞し所望しましたが、木彫として完成したとき天心は亡くなっていました。天心夫人から頼まれ、棺のふたをあけて「先生、今できましたよ」と言って見せたといわれます。当館では、天心が激賞した《尋牛》の石膏原型を所蔵しています。若き日に天心の叱咤激励を受け、彫刻家として成長した平櫛は、^{こほちようじん}《五浦釣人》や^{かくしやう}《鶴鷺》など、生涯に幾度も天心の肖像彫刻を制作しました。

天心が明治31年（1898）に設立した日本美術院（前期）は経済的な困窮から閉鎖を余儀なくされ、美術院の作家たちは茨城県の五浦に移転し、苦しい時代を過ごします。しかし、天心の没後、大正3年（1914）に横山大観や下村観山らを中心として日本美術院が再興されました。再興された美術院では日本画のみならず洋画部と彫刻部も設けられ、平櫛も同人として長く日本美術院の発展に努めました。本年は日本美術院が再興されてちょうど100年、天心没後101年にあたる、まさに節目の年といえるでしょう。

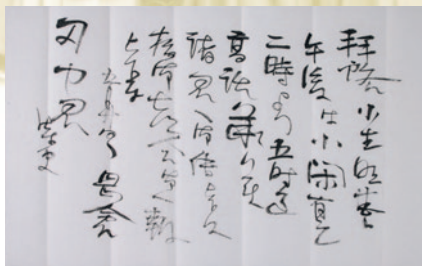
今回、当館が所蔵する平櫛田中の院展出品作を中心に、岡倉天心関連の資料、再興日本美術院で活躍した作家たちの作品116点を展示します。天心が称賛した《尋牛》をはじめ、横山大観、下村観山、^{せいそん}前田青邨、^{うせん}小川芋銭、^{ちようざん}中原悌二郎、佐藤朝山など平櫛旧蔵の作品は、彼らとの親しい交流を物語るものです。本展で、再興日本美術院の息吹とその造形世界を感じていただければ幸いです。



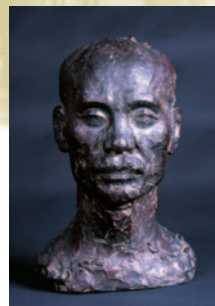
②



①



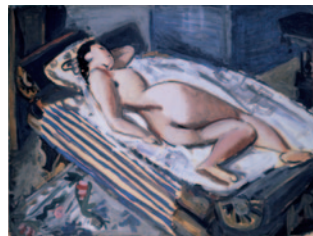
③



④



⑤



⑥



⑦



⑧

- ①平櫛田中《天心先生記念像試作》1931年頃 ②平櫛田中《尋牛》1978年
- ③平櫛田中宛《岡倉天心書簡》 ④中原悌二郎《平櫛田中像》1919年
- ⑤横山大観《月明》1931年 ⑥小出檐重《支那寝台の裸女》1929年
- ⑦佐藤朝山《不動尊》昭和期 ⑧塩出英雄《浄域》1958年

関連行事

◎学芸員によるギャラリートーク

5月3日(土)、4日(日)、5日(月)、6日(火)

6月1日(日) 13時30分～

聴講は入館料が必要 申込不要